

環境経営論 2005年度個別感想集

平成17年8月2日PM
東京外国語大学 担当講師 小野木正人

1. 一番印象的だったこと

- ワークシートを実際に自分たちで作ったこと。(3)
- ワークシートの作成で、大学を環境影響と言う新しい視点から捉えなおすことができた。
- 環境影響評価を実際にやって、思ったよりたくさん環境影響があることに驚いた。
- 日本が選択したのが Reuse ではなく Recycle の道であるのは、時代錯誤であるということ。
- 環境影響評価リストの項目の細かさ。
- 企業価値が実際に使っているリストで授業をしたこと。練習の中に実践を取り入れられたのがよかった。(2)
- 体験型の授業を大学で受けたのは初めてだった。
- グループディスカッションによる環境影響評価リストの作成が面白かった。
- 外大の設備のほとんどが環境に影響を与えるものだとわかったこと。
- インアウト集計表。自分が普段いかに電器やガスの使用量に無関心だったかわかった。

2. 得たもの、気づき

- 環境影響評価リストを作ったとき、エアコンを使うだけでも、たくさんの環境側面や影響があることに驚いた。(3)
- 実際に紙に書いてみて初めて、疑問に思うことやわかったことがあった。
- 100%処理できる廃棄物はないということ。リサイクルにはあまり意味がないこと。
- 大学内にも、環境に影響を与えるファクターがたくさんあること。(4)

3. その他の感想

- 環境に対する対応の難しさを感じた。自分の生活の中の環境影響調査表を作ってみるのも面白いと思う。
- 外大は工場等に比べれば環境への影響は少ないが、エネルギーや紙を使うばかりで社会に還元はできていない。工夫の余地は色々ありそうなのにもったいないと思う。
- グループワークがよかった。一人では全くわからなかったことができたし、授業も面白いものになった。
- 環境に対する対策があまり進展しないのは、公害の基準が曖昧で不完全だからだとわかった。